

# ヨコハマ人・まち 第3号

## -まちへ人がまちをつくる-

都市計画局企画調査課では、パートナーシップのまちづくりを進めるため、まちづくりに関する情報誌をだすことになりました。この情報誌は、趣旨に賛同して集まった市民と企画調査課で作っています。具体的な地域のまちづくりの事例を中心に、活動支援制度、行政や企業のかかわり方などを紹介していきます。

## くわくわ森を知っていますか

てんのうもりいずみこうえん  
-森をいかしたまちづくり「天王森泉公園」-

いつ、どんな時に見ても美しいと思えるもののひとつに木もれ日があります。良く晴れた日、豊かな緑を擁して大きく手を広げた木の下で、何ともいえない安らぎを覚えた経験はありませんか？ 緑のもつ潜在的な力は、暮らしに不可欠なものです。しかし、都市部に住む多くの人が、「緑に囲まれて暮らすことなど所詮無理。せいぜいリビングに観葉植物を置き、ベランダに鉢植えが関の山」と考えています。

視点や認識を改めてみるのは大切なことです。自分の居住環境の中に、豊かな緑はないでしょうか。みんなの森だけど、同時に自分の森になる可能性を含む場所が案外近くにあるはず。今ある自然を大切にしつつ、さらに豊かにしていくことを一人ひとりが意識し、自分にできることを無理なく実行して大きな実現につなげた好例があります。

地域住民と行政が力をあわせて、1997年（平成9年）11月に全面オープンした泉区の「天王森泉公園」です。1月のある土曜日、天王森泉公園に伺い、天王森泉公園友の会会長、戸田浩司さんにお話を聞きました。

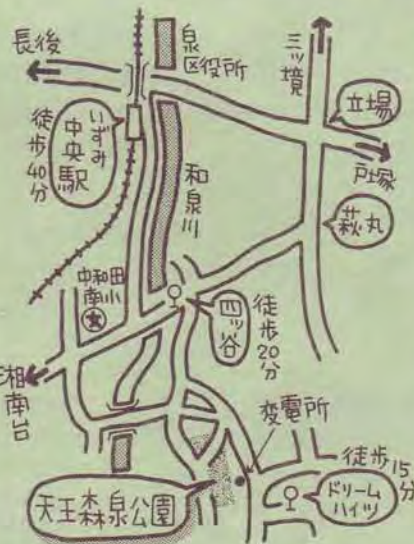
### この森はどこにありますか？

地域の子どもたちに「くわくわ森」と呼ばれている天王森は、泉区の南端、戸塚区との区境に近く、泉区内を南北に流れる和泉川下流域東岸の、斜面樹林地の一角にあります。

横浜ドリームランドの北西数百メートルに位置する約3.5haの泉区最大の地区公園ですが、まだ市販の地図に公園名は記載されていないようです。周囲は水田をはじめ農地が多く、また公園内は雑木林や竹林、豊富な水量の湧水を活かした「わさび田」や自生するゲンジボタルなど、豊富な自然が残されています。

### 水、緑豊かな天王森の公園づくりは、 どのようなきっかけで始まりましたか？

1994年（平成6年）、公園建設予定地を含む天王森地区で、泉区の呼びかけで水をいかした街づくりを考えるワークショップ「水のまち'94 in IZUMI」が開催されました。このとき公募や自治会推薦等で参加した市民スタッフが、公園の予定地視察やイメージの検討もしました。



(→次頁左上へ続く)

#### ◆「緑地保全地区」

「緑地保全地区」とは、良好な自然環境を形成している緑地を、快適で住みよい街づくりを目指して将来にわたり保全していくために、法律（都市緑地保全法）に基づいて都市計画に定める緑地保全制度で、平成9年1月末までに17地区78.5haが指定されています。指定後は、管理行為以上に樹木を切ってしまうたり、建物の新增改築や、土地の造成等をするに制限がかかります。

なお、横浜市では地区指定に際し、土地所有者の同意を得まして指定手続きを行うことにしています。

#### 都市計画の キーワード

#### ◆「市民の森」・「ふれあいの樹林」

また、横浜市独自の緑地保全制度に「市民の森」や「ふれあ

いの樹林」があります。これは、土地所有者の方から市が緑地をお借りして散策路や休憩所など簡単な整備をした後に、皆さまにご利用していただく制度です。

管理・運営については、周辺地区にお住まいの方々などが愛護会を結成し、年間を通して活動を行っています。これらの制度は、土地所有者のご理解があって成り立っているため、所有者の方に迷惑をかけることがないよう、また、お互いに快適に利用することを心がけていただけるようお願いいたします。

制度の指定地は、緑政局発行の「横浜市公園緑地配置図」で確認できます。また、緑政局緑政課、各農政事務所でも案内パンフレットをお配りしています。

問い合わせ先：緑政局緑政課 TEL.671-2624

このワークショップ「水のまち」が天王森での公園づくり市民参加の始まりと、私は位置づけています。私もここから天王森にかかわってきました。「水のまち」に参加した地元の中和田南小学校の子どもたち（当時4年生）が発見した水の魅力は、きれいな「せせらぎ」、いろいろな生き物の棲んでいる「流れ」、そして水遊びのできる「水辺」でした。

こうした子どもたちの提案やアイデアは、1995年（平成7年）に泉区と緑政局が呼びかけた「公園計画づくりワークショップ」に引き継がれ公園整備の中に反映されています。このワークショップでは応募した20～30人の人を中心に、施設などのハード面だけでなく公園の利用や運営などのソフト面についても話し合いを重ね、公園のイメージをふくらませていきました。

## 公園の運営については、市民はどのような準備をしてきたのですか？

「公園計画づくりワークショップ」の回を重ねながら、ワークショップに参加した市民を中心に、公園全面開園までの2年間、天王森の豊かな自然を維持・活用しながら公園完成後の運営を考えていこうと、「天王森泉公園運営準備会」を自主的に発足させました。自然観察会などの活動を実施しながら経験を蓄積し、行政との話し合いも続け、公園の将来像や、公園を市民が自主的に運営するための組織についての検討もしてきました。

「水のまち」の際に発行されていた「天王森通信」を「準備会」で引き継ぎ発行し、コアゾーン（竹林、わさび田、畑、池、流れ、古民家）の整備や使い方を話し合う「公園コアゾーン計画づくりワークショップ」が緑政局主催で行われたときには、地元6,500世帯に「通信」を通じて毎回話し合いの内容を知らせるとともに、新たな参加者も募りました。18自治会町内会にお願いして回覧した「通信」は、現在も続けて発行しています。

「準備会」は1996年度（平成8年度）には環境保全局から環境保全活動助成金を受け、活動を充実させることができました（1997年度（平成9年度）も助成を受けました）。

さらに同じ年に、公園愛護会に登録され、また市民水環境調査協力員（団体）にも採用されました。これらは、メンバーの環境保全への意識向上に大いに役立ちました。

## ところで、戸田さんが所属する「天王森泉公園友の会」とは、どんな会ですか？

公園内には「天王森泉館<sup>やかた</sup>」という、市の歴史的建造物に認定された古民家があります。これはかつて和泉川沿いで盛んだった製糸産業の唯一の遺構で、明治時代に建てられた木造2階建ての製糸場本館（接客や宿舎として使われた建物）を公園施設として復元したものです。見学や休息の場として使われるだけでなく、展示や講習会なども行うことができ、サークル活動やイベントにも使われています。

「天王森泉公園友の会」はこの古民家の管理・運営を市から委託されて行う他に、「通信」の発行、行事の企画運営、雑木林の管理など、天王森の自然を守り育みながら活かし楽しむボランティア活動を行っています。開園を控えた1997年（平成9年）春、公園運営に参加するボランティアを公募し、集まった人たちの話し合いで発足させた会です。

## 今後の夢は何ですか？

天王森での活動が始まってから公園開園まで3年半もの時間があり、公園づくりという身近で入りやすいテーマだったこともあって、多くの議論を重ねながら参加者の思いがまとまっていったように思います。議論に時間がとれたとはいっても、実際に公園が開園してみると話し合っていたことや決めなければいけないことがたくさん出てきました。さらに公園の自然を自分たちの手で守っていくことを始める....、いよいよ本当の意味での公園づくり、まちづくりのスタートです。まずは多くの人に来園していただき、天王森のすばらしさを知っていただく。次に行事や森の作業などの活動に参加して天王森を楽しんでいただきたい。その結果、この里山、この公園が維持され、さらに地域にあたたかい人の輪が広がる。天王森がそんなまちづくりの拠点になることを願っています。

（→次の頁の左下へ続く）

## Q & A

### Q. 公園愛護会ってなあに？

A. 街区公園を中心とした地域に身近な公園では、公園が清潔な環境で地域の方々の憩いの場・コミュニケーションの場として十分活用されるよう、公園周辺の地域の方々に会を結成して頂き、清掃・除草、樹木への水やり、公園の利用に関する地域への呼びかけなどを行っていただいています。これが「公園愛護会」です。

自治会・町内会を主体として市全体で約1,900団体が結成され、月数回日曜日など活動しやすい日に作業しています。主な活動は清掃ですが、公園に対する市民ニーズの多様化に伴って愛護会に対する要望も変化してきており、最近では樹林や池など自然が多く残っている公園の愛護会は、これらの施設の管理なども行っています。

今後、清掃活動に加えて公園利用の活性化を図るための方策について検討していきたいと考えています。

なお、愛護会に関する問い合わせは、緑政局公園部管理課(TEL. 671-2643)までご連絡ください。

### 環境保全局の「環境保全活動助成制度」

この助成制度は、「横浜市環境保全基金」を活用した事業の一つで、市内で自主的な環境保全活動を行っている市民団体の活動費を助成するものです。環境保全活動の充実・発展を意図した新たな取組（プロジェクト）に対して助成する「ステップアップ・アシスト」（限度額100万円）と活動開始後3年未満の団体に対して助成する「イニシャル・アシスト」（限度額50万円）の2種類があります。

助成を受ける場合には、定められた申請書類を提出していただき、「横浜市環境保全活動推進委員会」の審査を経て助成額が決定します。申請書類は、問い合わせ先まで御連絡いただければ郵送します。地域での環境保全活動に、この制度を活用してはいかがでしょうか。（平成10年度の締め切りは3月20日です）

なお、助成団体の皆さんが活動の成果を発表し、他の団体との交流を進める場として、毎年3月に「成果発表会」を開催しています。

今回は3月14日（土）に「フォーラムよこはま」で行います。

■担当窓口・問い合わせ先：環境保全局環境政策課  
(TEL. 671-2484 FAX. 224-6627)

## 制度紹介

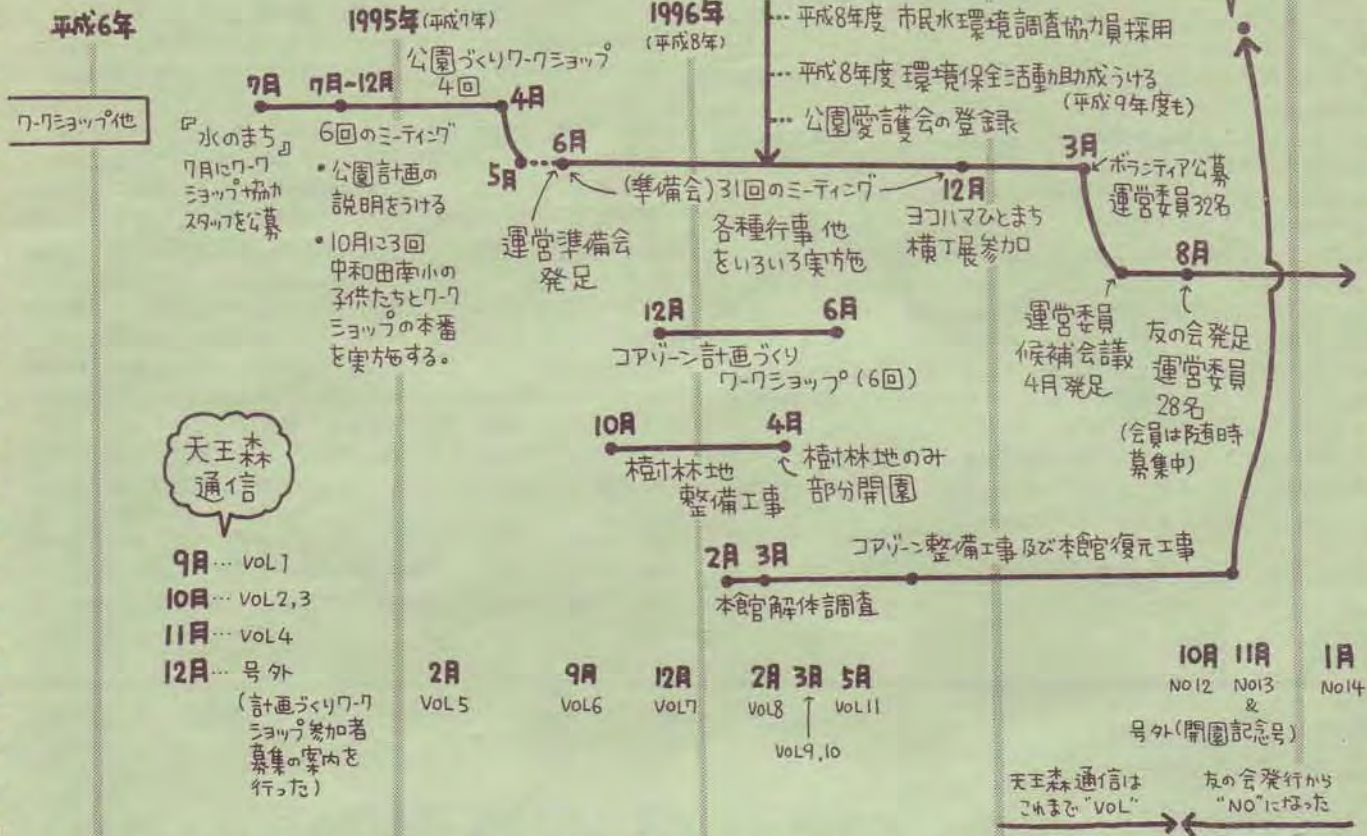


# 天王森泉公園の経緯



1997年 (平成9年)

1998年 (平成10年)



新春カルタ会、春の竹の子掘り大会、夏のホタル鑑賞....、季節毎の様々な行事もあります。みなさんもぜひ一度お越しになってください。

戸田さんに案内していただき、雪化粧された森の中を歩いてみました。

斜面緑地の中にある小さな谷戸。美しい水がこんこんとわき出ています。ワサビの葉が寒さにも負けずに青々とし、竹林の立派な竹は天を突くように屹立しています。春の草花、初夏のホタルの舞い、どれもこれも楽しそうと思いをめぐらせます。公園の持つ自然資源のすばらしさの他に、公園にたずさわっている人たちが楽しんでやっているということもその原因の一つと感じられました。

またたく間に時は過ぎ、冬の夕暮れ。田園風景の遠くに丹沢連峰、富士山がシルエットを見せています。雪景色の天王森は、遠い別世界に旅しているような錯覚を覚えました。手塩にかけた森を誇らしく愛おむ気持ちは、公園づくりにかかわった人たち共通の思いでしょう。人づくり、まちづくりを育むこの公園に、次回は青空の日を訪れて、思いっきり木もれ日のシャワーを浴びたいと思っています。(蟹沢・大貴)

■天王森泉公園事務所 TEL: 804-5133.  
問い合わせ時間10時~16時  
休館日: 火曜日(祝祭日の場合は翌日) および年末年始



(財)東京横浜独逸学園(都筑区茅ヶ崎南)校長ミラー・ギンター氏に、ドイツ人のまちづくりと森についての考え方をお聞きしました。

私たちは森を大切にしております。森に入ると心が安らぎ、森林浴など健康に大切なことが良く分かっているからです。

私の生まれたフュッセンのまちは100mも歩けば森に入ります。森と共に暮らしているといっても過言ではありません。私は都会に住むことも出来るのですが、私が本当に安心して暮らして行けるのはこのまちなのです。いつかはこのまちに帰るつもりです。日本流に言えば「森に囲まれた私のふるさと」なのです。

まちが森と共にあり、自然の良い環境に囲まれて暮らすという事は、ドイツ人のだれもがこのような考え方であり、一般的な考え方なのです。まちづくりも森づくりも共に進められるのです。

教育的な面で言えば、当学園がこの地にあるという事は、幸せです。静かな緑に囲まれた環境で精神を集中して学べるという事は、教育上とても大切な事です。またこの様な恵まれた環境の中で日本も多くのまちづくりが出来ればよいと思います。人が暮らして行く上で、自然に囲まれた良い環境は、本当に大切な事だと思います。(鶴田)

市民参加の森づくり・よこはま

「流域沿岸サミット in 野島, 平潟湾」  
～「流域」と「沿岸」の新しい関係づくりのために～

平成6年に始まった緑政局の「よこはまの森育成事業」は、横浜市内に残された雑木林や人工林などの森を、市民の手により守っていくという動きを支援するものです。そのカウンターパートとして、8年には「よこはまの森フォーラム実行委員会」が結成され、まさに市民と緑政局の対等なパートナーシップで事業をすすめています。

当初、よこはまの森育成事業のフィールドは、公園や市有緑地などの横浜市が所有する森でした。それが平成8年から市民の森にも活動が広がり、地主さん達と一緒に間伐作業や下草刈りが始まりました。共同作業をする中から、当初は「市民にどこまでできるか」とちょっと不安げだった地主さん達の考えが、「市民もなかなかやるな」に変わってきたのです。市民側も「昔から職業として受け継がれてきた技術はすごい」と驚くこともしばしばで、伝統的な技術・手法を教えてもらい、力量アップに結びつけています。

お互いの力量を認めあったところで、「私の所有する森もやってほしい」という他の地主さんの声も出てきて、私有緑地のフィールドが増えてきました。

今年是全国雑木林会議が横浜で開催されます。これも一つのジャンプアップの機会として、横浜での森づくりは、地域での幅広いネットワークを土台にして、更なる躍進を考えています。

問い合わせ先：緑政局緑政課  
TEL.045 (671) 2625

金沢区にある野島・平潟湾は、横浜で唯一自然海岸が残っており、市民がその保全再生を目指した活動に取り組んできました。

昨年3月の横濱金澤まち博覧会で「市民が提案する野島・平潟湾のマスタープラン（将来像）」の骨子を発表して以来、横濱金澤地域総合研究集団（KYATS）では、野島・平潟湾をフィールドとして、生き物調査やごみ清掃、地元の古老や漁師さんの話を聞く会、「金沢水の日」で参加者へのアンケート調査等の様々な手法でマスタープランの肉付け作業を継続して行って来ました。その結果がとうとう「野島・平潟湾フィールドミュージアム構想」としてまとまり、3月1日に野島青少年研修センターにて「沿岸サミット」を開催して、広く市民に公開し、議論しました。

「フィールドミュージアム構想」とは野島・平潟湾全体を多摩三浦丘陵や東京湾の広がりの中で、ネットワーク型の生きた博物館にしてしまおうというものです。この、「フィールドミュージアム構想」を実現していく上での大きなポイントは、干潟や自然海岸の保全活用等をテーマに市民と大学、企業、行政の4者の協力連携関係を築くこと、そして金沢区という行政区を越えた、東京湾沿岸と多摩三浦丘陵流域の自治体や市民活動とのネットワークを形成することです。当日は、あいにくの悪天候にもかかわらずボランティアによる干潟への葦の植栽を行ったり、また、様々な立場の人々からの活発な意見が交わされ、構想実現への一歩をふみ出しました。（横濱金澤地域総合研究集団 KYATS）

問い合わせ先：金沢区役所区政推進課企画調整係  
TEL.045 (788) 7727

イベント

情報

■ 市民活動フェア'98 ～出会いと交流の市場～  
「とどけよう未来へのメッセージ」「つたえよう私たちの心」

日時：平成10年3月21日（祝）22日（日）  
場所：かながわ県民センター（横浜駅西口三越裏）  
主催：市民活動フェア'98実行委員会  
共催：かながわ県民活動サポートセンター  
連絡先：佐藤 TEL.045-983-7536

参加市民団体によるシンポジウム、ワークショップ、展示などの企画が90、45団体のお店が並ぶフリーマーケットなど

■ シンポジウム「横浜沿岸・東京湾岸のパートナーシップ型環境修復をめざして」

（日本海洋学会 サテライトフォーラム）  
日時：4月4日（土）午後5時20分～8時40分  
場所：横浜市立大学（京浜急行金沢八景駅下車）  
○第1部 報告及び討論（午後5時20分～7時00分）  
・「横浜市金沢区沿岸のパートナーシップ型保全」  
工藤孝治（神奈川県水産総合研究所）  
・「沿岸環境修復へのアプローチ」  
棚瀬信夫（鹿島建設技術研究所）  
○第2部 交流討論会  
（午後7時10分～8時40分。第2部のみ懇親会費500円）  
問い合わせ：前日まで 金沢区役所区政推進課企画調整係  
TEL.788-7727 FAX.788-7788  
当日 横浜市立大学経済研究所  
TEL.787-2063

主催：横浜市立大学経済研究所/横浜市金沢区役所/横濱金澤地域総合研究集団

この情報誌は、「パートナーシップのまちづくりを進めるための情報誌」という趣旨に賛同して集まった市民と都市計画局企画調査課で作っています。編集会議は、同じような思いを持つ方なら、どなたでも参加できます。また、この情報誌は各区役所、地区センターなどで配布しています。続けて読みたい、という方には個別にお送りしますので、ご意見・ご感想をお聞かせください。

横浜市のホームページの中に「ヨコハマ 人・まち」のホームページを開設しました。この印刷物とほぼ同じ内容のものがインターネットでご覧になれます。インターネット版では、都市計画のキーワードやまちづくりのQ&Aを少しずつ貯めていく予定です。バックナンバーもごらんになれます。（<http://www.city.yokohama.jp/me/hitomati>）

第4号は、「生涯学習とまちづくり」を編集テーマに予定しています。

編集：「ヨコハマ 人・まち」編集会議  
発行：横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

\*「読みづらい」といった声を受けて、少しレイアウトなど変えてみました。いかがでしょうか。他にもいろいろとご意見をいただきありがとうございます。編集会議への参加、購読希望、ご意見などはこちらへ！

第3号の編集メンバーは

飯塚 慎司, 大貫 浩, 榎山 恵美子, 蟹沢 れい子, 鴻田 益孝, 重岡 昭男, 谷口 和豊, 松井 祐子  
川崎 あや, 川瀬 泰代, 賀谷 まゆみ, 鳥山 稔 (協力者) 戸田 浩司 でした。